

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2019年7月号

NO. 309

TOPICS

新年度を迎えて

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 畔柳一典

MESSAGE P3

PR活動ガイドラインを策定しました

REPORT P4

IPRAとの協力関係に関する覚書を締結

ATTENTION P5

第25回「PRプランナー資格認定検定試験」申込7月19日(金)まで!

ATTENTION P6

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

7月号 目次

7月～9月のスケジュール		— 1
MESSAGE(メッセージ)	新年度を迎えて	— 3
ATTENTION(お知らせ)	PR活動ガイドラインを策定しました	— 4
〃	IPRAとの協力関係に関する覚書を締結	— 5
〃	第25回「PRプランナー資格認定検定試験」申込7月19日(金)まで!	— 6
BULLETIN(活動報告)	第2回「企業部会総会」を5月30日に開催(会員限定)	— 7
REPORT(講演レポート)	第200回定例研究会「進化を続ける日本経済新聞社は何をどう伝えるのか ～新時代の報道機関の役割と日本企業に期待すること～」(会員限定)	— 8
関西の風	日本の伝統文化「畳」の新しい歴史	— 9
What's New from IPRA	IPRA Stavreva会長6月のマンスリー・メッセージ	— 11
協会掲載記事	PRSJ in Media	— 13
掲示板:新刊紹介	広報・PRの上級クラス向け指南書『エージェントのコーポレート・コミュニケーション』	— 14
PLAZA(会員情報)	入退会・変更会員	— 15

7月～9月スケジュール

広報・PR実務講座 2019 PRプランナー3次試験対応講座	日時 : 6月5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水) 7月3日(水)、10日(水) いずれも 19:00～21:30 会場 : コンベンションルームAP虎ノ門
広報・PR実務講座 2019 広報・PRスキルアップ実践講座第1回 (クライシス・コミュニケーション)	日時 : 7月11日(木) 13:30～17:30 会場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講師 : ゼウス・コンサルティング(株) 代表取締役社長 白井邦芳氏 テーマ : 緊急事態におけるメディア対応の要諦～クライシス・コミュニケーションの基本と緊急記者会見～
広報・PR実務講座 2019 PRプランナー1次試験対応講座	日時 : 7月16日(火)、23日(火)、29日(月)、8月6日(火) いずれも 19:00～21:30 会場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
PRプランナー資格認定 検定3次試験	日時 : 7月20日(土) 12:25～16:00 会場 : 富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター(東京) 富士通ラーニングメディア関西ラーニングセンター(大阪)
夏季情報交換会	日時 : 7月24日(水) 18:30～20:30 会場 : 卓球ができるレストラン「THE RALLY TABLE(ザ・ラリーテーブル)」
PRプランナー資格認定 検定1次試験	日時 : 8月25日(日) 10:20～12:00 会場 : 東洋学園大学 本郷キャンパス(東京) 毎日インテシオ(大阪) AP名古屋(名古屋) 北海道建設会館(札幌)

7月～9月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	(7月度)	日 時	:	7月 11日 (木)	16:00～17:30
	(9月度)	日 時	:	9月 12日 (木)	16:00～17:30
		会 場	:	一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館	
教育委員会	(7月度)	日 時	:	7月 17日 (火)	17:00～18:30
		会 場	:	協会会議室	
資格委員会	(8月度)	日 時	:	8月 8日 (木)	16:00～17:30
		会 場	:	協会会議室	
国際・交流委員会	(7月度)	日 時	:	7月 18日 (木)	16:30～18:00
		会 場	:	協会会議室	
広報委員会	(7月度)	日 時	:	7月 22日 (木)	16:00～17:30
		会 場	:	協会会議室	
顕彰委員会	(7月度)	日 時	:	7月 16日 (火)	10:30～12:00
		会 場	:	協会会議室	
企業部会幹事会	(7月度)	日 時	:	7月 3日 (水)	17:00～18:30
		会 場	:	協会会議室	
PR業部会幹事会	(7月度)	日 時	:	7月 16日 (火)	16:00～17:30
		会 場	:	協会会議室	

新年度を迎えて

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事長 畔柳一典

日頃から会員の皆様には協会活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。4月より新たな年度に入っておりますが、先般6月6日に定時総会が開催され、令和元年（平成31年度）の理事会体制がスタートしました。

今年度は年初のご挨拶でも申し上げましたとおり、新たな会員制度が4月1日より導入され、現在3か月が経過したところですが、順調に推移しております。これも会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。今回の会員制度改訂ではご案内のとおり、「個人会員」を新設いたしました。少しでも多くの方に協会活動にかかわっていただき、日本のパブリックリレーションズ（以下PR）の発展を推進していきたいと思っております。この他にも、今後の協会発展に適合した委員会・部会制度を特別委員会で議論していただいております。

特別委員会といいますと、40周年記念事業特別委員会がありましたが、今年度より「40周年記念事業ステアリング委員会」に発展的改組を実施しました。40周年記念事業を世界に向けて発信力のある、魅力あるシンボル事業として具体化していきたいと考えております。また、記念事業の実務部隊としてのワーキンググループを発足できるよう調整中です。

皆様、お忙しいとは思いますが、是非積極的に参加していただけますよう、お願い申し上げます。

このように、協会活動も従来にまして活性化してきておりますが、その根底をなす日々の主にメディアを活用したパブリシティ活動を、現代の社会環境に照らして協会が自主的に策定した「PR活動ガイドライン」をこの度発表しました。このガイドラインがPR界全体の質の向上に寄与することを祈念しております。会員各位のご理解とご協力を改めてお願いします。また、このガイドライン策定には3年にわたる期間を要しましたが、この間、ご尽力いただいたPR業部会及び企業部会の関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

PR活動ガイドラインを策定しました

PRS Jは、このたび「PR活動ガイドライン」を策定し、2019年6月20日に発表いたしました。

本ガイドラインは、当協会が2016年に全面改訂を行って制定した協会倫理綱領の精神を全面的に受け継ぐものです。PRの活動目的である「相互理解と合意形成」「信頼関係を深めるためのコミュニケーション」などを実現するための行動基準を示すために、理事会、企業部会、PR業部会など多くの協会関係者の皆さまのご協力のもと、策定に取り組んでまいりました。

本ガイドラインの内容は、協会会員のみならず広報・PR業務に携わるPRプロフェッショナルの方々に向けて策定したものです。

今回のガイドラインでは、パブリックリレーションズの幅広い領域の中から、PRパーソンにとって中心的業務となっている「メディアリレーションズ」領域の行動基準を定めています。近年の統合メディアコミュニケーション活動の基本フレームとなっているPESO (Paid, Earned, Shared, Owned) の4つのメディアごとに具体的行動基準を示したものとなっています。

本ガイドラインは当協会の公式サイトをはじめ、協会発行の刊行物やセミナー・イベントなどを通じて、協会内外に広く周知し理解獲得に努めていく所存です。

会員各位におかれましては、PR活動ガイドライン策定の趣旨と内容をご理解いただき、広報・PR業務を遂行する上で参考にさせていただきたいと存じます。

今回のガイドライン策定を機に、パブリックリレーションズの一層の発展・普及につなげていくことができれば幸いです。

■ガイドラインはこちらからご確認ください。

<https://prsj.or.jp/about/pr-guideline>

■本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 事務局

福家・渡邊 TEL : 03-5413-6760 / e-mail : mail@prsj.or.jp

IPRAとの協力関係に関する覚書を締結

PRS Jは、このたび国際的なPRパーソンの組織であるIPRA (International Public Relations Association) との協力関係に関する覚書を締結いたしました。

今回の協力関係により、PRS JではIPRAとの情報交流を進めるとともに、IPRAから提供されたPRに関する論文などのコンテンツを会員の皆様に提供してまいります。

本号の16ページにその第一弾として、「What's New from IPRA」と題してIPRA会長のマンスリーメッセージを掲載しております。

2020年の協会創立40周年に向けて、協会の国際的な交流事業や情報発信を進めていくことを計画しており、今回のIPRAとの協力関係構築はその一環となるものです。



IPRA (International Public Relations Association) について
IPRAは英国ロンドンを本部とするPRプロフェッショナルの国際的なネットワーク組織です。会員は法人ではなく、個人単位で構成されています。IPRAは、パブリックリレーションズの開かれたコミュニケーションと倫理面での向上を目指して、交流活動や行動基準の制定、PRに関する理論の主導的な活動などを行っています。

IPRAは毎年PRの国際的な賞であるゴールデン・ワールド・アワードを開催しています。IPRAは60年の歴史を持つ国際連合の公認の組織であり、趣旨と目的に賛同する世界中のPRプロフェッショナルを受け入れています。

■本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 事務局
渡邊 TEL : 03-5413-6760 / e-mail : mail@prsj.or.jp

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第25回「PRプランナー資格認定検定試験」

申込 締め切り迫る！7月19日(金)まで！

資格委員会

第25回となるPRプランナー資格認定検定試験1次試験（実施：2019年8月25日(日)）を、東京・大阪、名古屋・札幌の4会場にて実施します。

今回の試験から2018年10月に発表された新・試験体系となり、対応する1次試験公式テキストは『広報・PR概説』となります。

受験申込期間は、7月19日(金)までとなっておりますので、皆様のまわりにPRプランナー資格の取得を目指される方がいらっしゃいましたら、本試験についてご紹介ならびにご推奨を賜れば幸いに存じます。

＜PRプランナー資格認定制度／検定制度 1次試験 実施概要＞

試験日	2019年8月25日(日)
受験申込期間	2019年6月1日(土)～2019年7月19日(金)
受験申込方法	<p>受験申込から合否通知までの手順は次の通りとなります。</p> <p>※前回(第24回)と同様に、受験申込は完全にペーパーレス化となり、「PRプランナー資格制度」Webサイトからお申込となります。</p> <p>＜受験申込手順＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①受験種別と受験料をご確認ください ②受験料をお振込みください ③画像データをご用意ください ④PRプランナー資格制度Webサイトにアクセスします ⑤受験申込フォームに入力 <p>入力内容：氏名、受験種別、試験会場、受験票・合否発送先住所、生年月日、メールアドレス、受験料の振込日と振込人名、等</p> <p>アップロード内容：受験者ご本人の写真データ</p> <p>⑤入力確認画面を経て、受験申込完了</p>
受験票送付	2019年8月9日(金) 発送
合否通知送付	<p>2019年9月6日(金) 発送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2次試験ならびにPRプランナー補認定申請のご案内を、メールでも9月9日(月)にお送りします。

＜試験時間＞

09時30分	各試験会場に入館できます
10時20分	指定の教室・座席にご着席ください
10時25分	注意事項伝達・試験問題配布
10時40分	試験開始
12時00分	試験終了

※資格検定試験の詳細は、下記URLのPRプランナー資格制度Webサイトをご覧ください。



<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>

会 員 限 定**第2回「企業部会総会」を5月30日に開催
—会員交流の活性化を目的に、年次総会を実施—****企 業 部 会**

企業部会では、会員企業の相互の交流をさらに活性化すべく、第2回「企業部会総会」を5月30日、Alice aqua garden 品川で開催しました。

企業部会は、一般企業の広報部門に所属する方はもちろんのこと、広くPR業務に知識や関心を持つ方を対象に、広報担当者に共通する課題やテーマを積極的に取り上げながら、情報交換や人脈作りの場を提供し、研究会活動を通じて会員企業の皆様の知識・スキルの向上に寄与する取り組みを行っています。

企業部会総会は、このような取り組みをさらに加速し、幅広い会員の皆様への有益な情報提供と企業部会会員相互の交流をはかるべく開催されました。

昨年に引き続き2回目となる企業部会総会でしたが、ご多忙にもかかわらず多数のご応募をいただきました。当日は飛び入り参加を含む、20社27名ものご参加をいただき大盛況の総会となりました。

会 員 限 定

第200回定例研究会

進化を続ける日本経済新聞社は 何をどう伝えるのか

～新時代の報道機関の役割と日本企業に期待すること～

講師：日本経済新聞社

常務取締役 東京本社編集局長

井口哲也氏

第200回定例研究会（5月度）は、5月21日（火）、コンベンションルーム AP新橋で開催しました。講師はNHK 報道局経済部長 小椋並樹氏。テーマは「進化を続ける日本経済新聞社は何をどう伝えるのか～新時代の報道機関の役割と日本企業に期待すること～」。当日の参加者は89名でした。



<コラム関西の風>

日本の伝統文化「畳」の新しい歴史

株式会社 TM オフィス
馬場 大輔

◆畳と同じ1,200年の歴史を持つ京都の“畳寺”

大阪では2025年大阪・関西万博を控え、またいよいよ来年に迫った2020年東京五輪に向け、あちこちでマンションの建設ラッシュが進んでいるように見受けられる。様々な日本文化のPRに関わってきた一員として気になるのは、その中でも一体、どれぐらいの割合で「和室」が作られるのだろうか、ということを考えてしまう。日本人には、日本の生活に最も適した畳の生活をして欲しいという切なる願いがあるためだ。

畳の歴史は古く、なんと、古事記にも記載されるほど。平安時代になると、板敷に座具や寝具として置くなどいまの畳に似た構造になり、現在まで1,200年以上、日本古来の文化として脈々と受け継がれている。

さて、他方、日本文化の中核都市である古都・京都には、畳と同じく1,200年の歴史を誇る“畳寺”という愛称の寺院があるのをご存知だろうか。正式名称を「浄土宗大本 清浄華院（しょうじょうけいん）」といい、『清浄華院誌要』という寺伝によると、860年に清和天皇の勅願により円仁（慈覚大師）が開基したとされる。京都御所の隣に位置する由緒ある寺院である。

◆“畳寺”で開催した「畳供養」

清浄華院はなぜ“畳寺”なのだろうか？

境内を見渡してみると、その中核に「大殿」（だいでん）と「大方丈」（おおほうじょう）というお堂があり、いずれも100枚以上の畳が敷かれている。お堂の中の外陣は畳敷き、内陣は板張りという寺院が多い中、その全てが畳敷きというのは非常に珍しく、これだけでも畳と親和性があることがよく分かる。



清浄華院の大殿

また、畳産業を統括する日本最大の業界団体である全国畳産業振興会との縁も深く、2012年4月の「畳の日」に、清浄華院の伝統儀式にのっとり古い畳を供養し、畳の良さに想いを馳せる「畳供養」の行事を開始した。“畳寺で行う畳供養”としてPRしたところ、瞬く間に注目を集め、京都府や京都市などの自治体や観光案内所、近隣のホテル、菓子店などもPRに協力いただけるなど、京都の風物詩として認識され始めた。



畳供養の様子

なお、昨年からは規模を拡大し、「畳寺の畳まつり」として、畳供養を中心に、畳寺の御朱印授与や、畳楽器を使ったライブパフォーマンス、ミニ畳作り体験、畳寺スイーツの授与など、「畳寺で畳の魅力に触れあう」ことをコンセプトに開催している。

◆PRの力で畳文化を次世代へ継承

熊本県い業生産販売振興協会の調査によると、畳の表面のゴザの部分である「畳表」の国内の需要量は平成5年の4,500万枚をピークに下がり続け、ここ数年は1,400万枚前後で推移している。また、畳職人の高齢化・後継者不足による廃業畳店も深刻で、畳文化が将来的には危機に陥ると考える人も少なくない。

「畳供養」によって畳が新しい歴史を刻んだことは間違えなく、PRの力によって新しい歴史が作られた。“畳寺”ともどもこれから何百年、何千年と脈々と続いていくであろう。広報・PRが日本文化の歴史を作る、仕事をする上での醍醐味である。



IPRA Stavreva 会長6月のマンスリー・メッセージ Communications and Sustainability

こちらのページでは、協力関係を結んだ世界的なPRの組織である、IPRAのレポートや情報を随時ご案内していきます。

今月は、IPRA Stavreva 会長の6月のマンスリー・メッセージ Communications and Sustainability をご紹介します。

☆ ☆ ☆ ☆ メッセージ要約 ☆ ☆ ☆ ☆

今年の半年のIPRAのトピックスとして

- エグゼクティブ向けの研究レポート Gold Papers が発行されたこと
(<https://www.ipra.org/member-services/gold-paper/> からダウンロードできます)
- ブルガリア、リトアニア、中東、ケニア、日本で協力関係ができたこと

今、世界的な傾向としてニュース離れ、ニュースへの不信が生まれている中で、持続的な成長に向けて、今PRプロフェッショナルは何をしなければならないか。

- 最近の調査によれば、世界のあらゆるところでニュース離れや、ニュースに対する不信が生まれている。
- 一方で、グローバルな大企業のCEOがその座を失う原因として、モラルの問題が、業績の悪化や経営陣の問題よりも多くなってきている。
- 今、求められているのはリーダーシップであり、何が常識なのかということであり、未来に向けて何を話し合わなければならないのか、ということで、会話が必要とされる時はPR、コミュニケーションの専門家の出番である。
- IPRAには確固とした行動規約があり、世界中の優れた事例が集まるアワードがある。われわれは、こうした強みを生かしながら、すべての人たちの持続的な成長に向けて、PRやコミュニケーションのこれからの常識についてもっと語り合っていくべきである。

*IPRAの行動規範は <https://www.ipra.org/member-services/code-of-conduct/>にてご覧いただけます。



IPRA 会長 Svetlana Stavreva 氏

IBMヨーロッパ地区のPR & コミュニケーション・プロフェッショナル。ブルガリア出身。ブルガリアの大学にて経済学修士号取得。Chartered Institute of Marketing 取得。

Message from the IPRA President: Communications and Sustainability: June 2019

It is the end of June and a good moment to reflect on our overall journey together this year. In the last months IPRA continued to inspire and encourage its members across the world. IPRA's [Gold Paper](#) addressing executive reputation enjoys a record number of downloads. We have extended co-operation on matters of global PR in Bulgaria, Lithuania, the Middle East, Kenya and Japan.

But elsewhere no one is reading or trusting the news

A recent [poll](#) of more than 75,000 people in 38 countries, published by the University of Oxford's Reuters Institute for the Study of Journalism found that more and more people simply avoid news coverage. Indeed less than half (49%) trust the news that they themselves use. And the European Communication Monitor 2019, a [survey](#) based on almost 2700 respondents from 46 European countries, is also signalling the challenges of rising mistrust. These trends are confirmed by another interesting highlight. Strategy&'s CEO Success [study](#) found, for the first time in the study's long history, that more CEOs from the world's largest companies were dismissed for ethical lapses than for financial performance or board struggles.

Cause and effect?

Is this the result of a world today that is simultaneously more connected and more divided than ever? And is one division between a majority who have nothing of substance to say but nevertheless say it rather loudly, and a minority with insight whose message is lost in the overall noise? This conundrum is our wake up call. It is a signal that our time demands leadership, common sense and purpose in the conversation of the future. And as always when we need conversation, PR and communications expertise is required.

Who you gonna call? Noisebusters

Luckily IPRA, a community where PR, communications and sustainability thrive together, can help. Our culture is backed by IPRA's [code](#) of conduct, engaging a professional community of members from all over the world and from every industry. IPRA programmes, such as the Golden World Awards for Excellence in PR, attract knowledge and best practices from around the globe. We should all get more engaged in conversations for common sense in PR and communications. Conversations that ultimately support high professional standards for a sustainable development, not just for our industry, but for all of us.

Do you agree? Let me know by commenting below.

Svetlana Stavreva
President 2019



PR SJ in Media

● 6月1日（土） 『月刊広報会議』 7月号

『月刊広報会議』7月号の当協会コラムにおいて、PR業部会が開催した「PRパーソンズミーティング2019」を報告する記事が掲載されました。

今回のPR業部会では、2019年度の活動報告に加えて、当協会が実施した調査の結果をまとめた「広報・PR業実態調査2019年度版」、PRパーソンの行動基準を示す「PR活動ガイドライン」について報告が行われました。

記事では、「広報・PR業実態調査2019年度版」の基本的な内容として「PR業市場における現状」、「今後の展望・課題」などが、また「PR活動ガイドライン」の内容としてPRパーソンに求められるプロフェッショナルとしてのあり方やリレーション活動・コンテンツ制作活動のガイドラインなどが紹介されています。

● 6月1日（土） 『月刊広報会議』 7月号

『月刊広報会議』7月号の「5月の注目ニュースは？ 広告界ニュースダイジェスト(3)」において、当協会が「PR業実態調査」の結果をリリースしたことが紹介されました。

これは協会が5月9日に調査結果をプレスリリースしたことを伝えるもので、調査の目的や期間をはじめ、2018年度のPR業の推計売上金額は1290億円となることなど調査結果の概要が報じられています。

● 6月20日（木）朝日新聞（大阪）

朝日新聞（大阪）において、当協会関西支部の43人が、朝日新聞大阪本社を見学訪問したことが紹介されています。

（事務局・真部）

[記事協力 株式会社内外切抜通信社]

広報・PRの上級クラス向け指南書

『アージェンティの コーポレート・コミュニケーション』 ～社員の広報・PR教育研修にも活用できます～

PRプランナー取得者クラスを対象とした、広報・PRの指南書が発刊になりました。『アージェンティのコーポレート・コミュニケーション』で、経営戦略と一体化したコミュニケーション戦略の構築方法について、グローバル企業の豊富な事例を基に解説した本です。米国では20年以上にわたってロングセラーを続けています。

今回の邦訳書は第7版で、21世紀の市場環境の変化に対応して、CSR、IR、SNS、危機管理などについての最新事例を盛り込んで、経営戦略としての広報・PRの重要性を解説するものです。市場競争で勝ち抜くために必要なコミュニケーションとは、経営戦略の下にコミュニケーション機能を統合した組織をつくり、同時に各ステークホルダーとの関係を強化することであり、各ステークホルダーは相互に情報を共有して組織を厳しい目で見ているため、首尾一貫した対応策が重要なことが、100以上の企業事例に基づいて紹介されています。

著者のアージェンティは、アイビーリーグ名門のダートマス大学ビジネススクール（タック・スクールオブビジネス）教授で、30年以上にわたってコミュニケーション戦略についての教鞭をとる傍ら、大手企業のコンサルティングを行っています。本書では現場感覚のある具体的な成功例・失敗例が紹介されており、IBM、ナイキ、マイクロソフト、ヤフー、P&G、スターバックス、コカ・コーラなどのほか、トヨタ、ソニー、任天堂など、日本企業の事例も豊富です。

本書は、経営トップを目指すビジネスパーソンや、広報・PRの実務経験が長くて基本書に満足できない人向けです。PRプランナー資格を取得後、さらに研鑽を重ねて専門家として経営トップにコンサルテーションをする際に、または広報・PRの現場で上司や部下に意見を伝える際に、本書のような先端事例を知っていれば、説得的かつ論理的な説明ができることでしょう。



『アージェンティのコーポレート・コミュニケーション』

著者：ポール・A・アージェンティ

(ダートマス大学ビジネススクール)

監訳者：駒橋恵子（東京経済大学）・国枝智樹（上智大学）

仕様：A5サイズ・352ページ

価格：2,800円（税別）

出版元：東急エージェンシー

発刊日：2019年6月27日

■ 入退会・変更会員

6 月度の理事会で審議・承認された入会・変更の皆さまをご紹介します。(社名・氏名五十音順)

I. 新入・退会・変更会員 (6 月)

入 会

◇正会員 3名 (社名50音順)

岩谷 綾子氏 (7月入会)	(株)ストーリーズ・オン 取締役・マネージングディレクター
天野 槇子氏 (7月入会)	(株)東急ホテルズ セールス&マーケティング部 アシスタントチーフ
菅井 利雄氏 (7月入会)	(株)ブレインズ・カンパニー 代表取締役社長

◇個人会員(報告) 2名 (氏名50音順)

井上 ゆり子氏 (6月入会)	フリーランス
河野 弘晃氏 (7月入会)	なし

変更者 (報告)

◇正会員 1名

長谷川 直人氏	から	石山 一可氏	(株)東芝 コーポレートコミュニケーション部 部長	に変更
---------	----	--------	------------------------------	-----

◇法人登録会員 2名

山口 知賢氏	から	国友 千鶴氏	(株)オズマピーアール 関西支部 本部長	に変更
荒川 統子氏	から	押野 貴雄氏	(株)電通パブリックリレーションズ 経営推進局 人事総務部 シニア・アドバイザー	に変更

<令和元年度7月1日からの会員数（※6月13日時点）>

種別	当月合計	内訳	会社数	会員数	前月 (2019年5月)
正会員	会社数	企業	176社	180名	会社数
	347社	PR業	150社	162名	344社
	会員人数	その他(官庁・団体)	21社	21名	会員人数
	363名	関西	46社	48名	360名
個人会員	198名				196名
准会員	104名				90名
法人登録会員	18名				18名
特別会員	6名				6名
総員数合計	689名				670名
法人賛助会員	1社				1社

■ 会員住所変更

(株) トータルメディア

〒176-0022 東京都中央区京橋 2-12-6

TEL : 03-6278-7773

FAX : 03-6278-7774

(株) エレクトロニック・ライブラリー

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-12-6

TEL : 03-3779-1211

FAX : 03-3779-1219

Cision Japan(株) (Cision Japan/PRIME RESEARCH)

〒100-0004 東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布 2F

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

FAX 03-5413-2147

※ 禁転載